

二人が何れを批判するが、何れもいかに「幹事会」が
数で押し切らる

(十一・二) 幹事会改選
二人批判的に立候補—敗北

(七〇年)
(一・下句) 一年生セミミと進行・ロツリアウト問題
過討議

(二・三) 社研部員三人和泉櫻樹泊り込分

(二・四) 幹事会に仲継問題提起↓各宿舎傷
かたしと一方的に通告

(三・中句) 幹事会「社研の名を使つて仲継會
放さやうとしよう」と困ると物告

(三・上句) 一年生×幹事会対立
「仲継に關して何ら報告せず」
(五・上句) 幹事会に批判的、不協力の合宿名
ボカシ一六付付に二人の名前を附
除↓更負的除名

(五・下句) 二人幹事会に公開質問状
「和泉地区に抗ギクテカン」

(同) 全体集会で除名問題討議
(同) 和泉系—課外之犯罪—で幹事会
サークル批判

(六) 惣社研退反式十人十人結成
学備問題を答えない幹事会
処分撤回—↓各宿舎イコソット宣言

(七・上句) 全体集会で討議
幹事会↓各宿舎不参加者は退部しう
造反派↓各宿舎だけがサークル活動で
けりい

一部宿舎(現理部)で幹事会は、学備問題
に何ら答えず、その使用を正統化し
た上、退部しうとけジャンマニスだ
↓↓ 幹事会降名でマシ

(八・二) 社研合宿進行

(八・三) 社研造反系宿舎で理論合宿
「宿舎」で「社研」批判的学備問題

↓社研事実上 二重権力 幹事会と造反系
(十) 造反系合宿報告書配布
セミミール 返済(社研部員三人加入)

(十三) 幹事会改選
造反系一人〇〇に憐愍し車向
幹事会に立候補

造反派↓見せかけの民主主義
首リスエカエ選挙寸ニセニスと
不参加

(十三〇) 幹事会↓部費未納を理由に除
名物告

(十三上句) 全体集会、除名の理由を問ひ
たがす(ヘルムツト 持参)

幹事会も幹事会選挙に立候補もせ
ず文句を言う筋では無いと
造反派選挙で敗北すれば合法的に
除名が来る事を認めていた

(十三下句) 造反系実働四人になる
再度問題提起の為↓造反派り教
を踏えつつ、独自の雜誌社研と名
のつて発行

(七・年) 新入部員八部

(四) 合宿の理別を詳しく説明せず
に幹事会が独断で進行
「頭断的に理別を進行」
(五) 一年生サークルの活動も合め
て理別方法批判公開質問状

(同) 一年生×幹事会討議会
幹事会強圧的、攻撃性部分と他の
一年生との分断策動

(六・下句) 一年生一部抗ぎ的退部
全体集会で幹事会追求↓現理社部

「二」部員サークル非開会に閉居し理部(部員
顧問の一人のセミミールが「社研」の退部を
社研側では理別コンパ等で造反し「サークル」カニコミ
する事)

(同) キカを委員長等抗ぎ的に退部、社研部員
セオルグしっつ 学習会

(七・上句) 理研成立に向けて準備合宿
「セオルグ」理研を「経世」資本誌

(十・上) 理研理論合宿進行成立
レシメと社研と「セオルグ」現在に至る

③ 以上事實経過を述べた説で有るが、
 理社研成立前史の問題性を理解して頂い
 た事と思ふ。文サ連に結集された諸君は
 ナンセンスだ、粉砕しようと言われれば
 もしれぬが、又或いは「社研など相手
 にする暇がない」と言われるかも知れぬ。
 然しだ、何故社研が今日能く存在しう
 るのか、その根本的の明りを自ら答へ
 切らざれば、若し粉砕した心、その粉砕
 は粉砕でしかなく、サ連斗を我々自らの
 手で再現するだろう。

確かに、社研を存在せしめて来たのは、
 我々の否社同人の力量不足とその意識性
 の問題に究結するのかもしれない。が若
 しそうではないとするならば、文サ連に結
 集した和々は、社研との討議会で何を見
 取ればならぬのだろうか。

確かに、我々の基盤視座からは、彼等
 は異端であり、奇形であろう。

ところが、細理に於ける母の目からは、
 農村のお伯さんの立場からは、我々が異
 端であり、彼等こそが、正統で有るのだ
 としてこの文サ連の或るA君が、社研に
 出れば、会社に八れば、君こそ、異端で
 あり、君の立場は、我々の社研にいた安
 定投影されるのである。

確かに、全共斗運動は、社会的意識指向
 性をも、自己否定の詭理で、内に、デバル
 トという異端を以て、外に明確に汁嗜
 しようとし

だが、自己否定の詭理が正統を乗り切
 り、異端たる自己から存せしめていた
 事と、自己否定が社会化しよつとすれば
 必然的に粉砕として、
 デバルトが持ち得なかつた、その事が
 サークル運動のものにも今日の不可
 避的に問はれているのではないだろうか。

我々が、社研を「否定」して捉
 え、彼等を肯定として「彼等」が如
 くにすれば否定できるかを、「自己変革
 できるのかを、今回討議会で、自己に問
 いつつせざるにゆきたりし、文サ連で
 も討議してゆきたい。

『方向性』

Ⅰ) 社研研究手法批判を基軸に
 ↓ 社研研究手法批判

Ⅱ) 社会学批判(既成学問批判)序説
 ↓ 社研でなくして飛展し揚せよ

Ⅲ) 社研活動統括を軸に
 ↓ 社研活動統括を軸に

内容
 研究 ↓ 夏季調査結果重視
 ↓ 台宿の訓練として日学的

に規律服従(形式主義) ↓ 学内外
 問題無視する基盤

↓ 講義公大なるウサビ
 ↓ 三四年と二年の事実的分断

↓ 二年部員の替替

Ⅲ) 社研を存在せしめた原因
 余々 ↓ 統体

部長を始め大学との関係
 文連の役割は

↓ サークルは何か有るべきか

↓ 全体討議

MEMO